

朗読CD『ゲーテを演じる名優たち』 - Große Goethe Interpreten

末松淑美

音楽である」と書かれている。なんと美しい言葉だろうと思つて、この一枚だけ捨てられなかつた。いまでも建物の中で耳を澄ませてみたくなることがある。

言葉は、文字と意味と音が一つに合わさつたものである。建築の例は、まったく新しい意味が生み出された美しさだと思つて、さて、舞台上で聴くドイツ語の美しさとは、いつたい何だろう。音か、意味か、それとも…

紹介するCDは、著名な俳優たちの朗読や演劇シーンを集めたシリーズの一枚である。寒々とした竖琴弾きの声、追いつめられてゆく若きウエルテル、恋の予感におびえるグレートヒェン、ぜひ一度聴いてみてほしい。映像とは別の魅力がある。そして、美しい音楽に囲まれている音大生の皆さんの感想を、ぜひ聞かせてほしい。



請求番号●XD63320
„Johann Wolfgang von Goethe. Große Goethe Interpreten“, Eloquence. Hörbuch. ISBN:3-8291-1426-5

●すえまつよしみ 本学准教授(ドイツ語)

シェイクスピア『夏の夜の夢』

友利修

の読書で1か月余しかかからない。シェイクスピアは数々の作曲家、特に19世紀ロマン派の人々に大きな影響を与えた。20世紀でもたとえばメシアンは、8歳のとき全戯曲の全役を一人遊びで演じるほどに熱中したことが自分の精神性を形成したと語っている。シェイクスピアを読むことで彼らともつと友達になれる。

1冊と言われれば、ここでは『夏の夜の夢』を挙げたい。妖精の戯れ、それに翻弄される恋人たちの情熱、庶民の笑いが夏至の前夜、森の中であやしくおかしくもつれほどける。五感を総動員させる作品だ。あまりに耳慣れたメンデルスゾーンの『結婚行進曲』がどれほど幻想と喜びに満ちたものか、新鮮な再発見もできる。

いくつもある邦訳のうち、ここでは特にこの戯曲にびつたりの小田島雄志訳を挙げておきたい。

自分が若いとき熱中し、何歳になつても楽しい、若い人にも薦められる本。何か挙げろと言われれば、私のばあい、ためらいなく「シェイクスピアぜんぶ」と答えられる。

シェイクスピアは私が全作品を読みとおした数少ない作家の1人で、大学生のとき、ある先生からそれを薦められたことによる。彼の作品は、それまでもある程度読んでいたが、思い立って最初から全部読むことで私に一つの大きな世界を開いた。そして人生の色々な局面で何度も心強い友となった。この一生ものの助言を私も感謝とともに次の世代に伝えたいと思つている。一日1時間ほど



請求記号●J23-959
シェイクスピア著、小田島雄志訳『シェイクスピア全集3』白水社

●ともりおさむ 本学准教授(音楽学)